

きどあいらく 喜怒哀楽

令和3年
4月号



認定 NPO 法人ぱれっと 地域支援と高齢・障害の垣根を越えた社会保障を考える会 広報誌

『新年度を迎えて』

理事長 川田 晋

2021 年度が始まりました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けることになりました。経営面でも打撃はありましたが、それ以上に皆が多く行動制限により大きなストレスを抱えることになっていることを危惧しています。

職員間でも職員研修会等ができず部署間の交流が減り、ギクシャクする場面も増えたように感じてしまいます。新年度もしばらくはこのような状態が続くことが想定できますので、少しでもストレスを軽減できるような対策を考えながら取り組んでいければと考えています。皆様におかれましても、ストレスの軽減を意識いただきたいと思います。また、繰り返しにはなりますが、引き続きの感染症対策の継続をお願いいたします。

このような状況下ではありますが、今月号は各事業の職員からの「抱負」を記載しています。コロナを吹き飛ばしていけるような取り組みができるようになるように頑張りたいと思います。今年度もご支援いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、新年度も、会員の登録やご寄付をいただきますようお願いいたします。経営的にも厳しさが増してきています。持続可能な事業運営にご支援をいただきますようお願いいたします。

『諦めないことが生む力』

ヘルパーステーションコラージュ 浅井節子

2020 年度はコロナ一色の 1 年間でした。得体の知れない敵と戦わないといけない恐怖、いつ終わるか分からない危機的状況への不安、いろいろな制限を強いられている不満等々、本当に辛かったですね。とにかくみんな本当によく耐えてよく頑張りました。この状況が落ち着いたら、みんな自分のこといっぱい褒めてあげたいですね。

コラージュでは支援においてもいろいろ頑張りました。ガイドで行ける場所が限られてくる中、利用者さんを危険にさらさず、周囲の方々に脅威を感じさせることなく、尚且つ楽しく過ごしてもらうにはどこに行けばいいのだろう？と、知恵を絞り意見を出し合いました。自然に親しむことで心が豊かになりました。マスクが出来るようになった方もいました。この状況だからこそ得ることができた力がたくさんありました。

2021 年度、まだまだコロナが落ち着くとは思えませんが、2020 年度に得た力でもっとも頑張れるような気がします。今年のコラージュの抱負は何事も諦めないこと。そして、それは私たちが目指している障害者や高齢者の社会参加に繋がっていく力になると信じています。

2021年度 会員及び寄附・寄贈のお願い

今年度も、正会員 賛助会員を募集します。合わせて寄付のお願いをさせていただきます。認定NPO法人ですので、寄付者には寄付控除を受けることができます。（対応する領収書を発行します。）多くのお力添えを賜りますようご支援をお願いいたします。

また、グループホーム設立・運営委員会の会員も募集します。ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

- ・正会員会費 3,000円 （法人社員になります。総会での議決権を持ちます。）
- ・賛助会員会費 3,000円 （応援団の会員になります。）
- ・会費は法人の運営費で使用させていただきます。

※出来るだけ正会員と同時に賛助会員にお申し込みくださいますようお願いいたします。

寄付も随時受付しております。責任をもって活用させていただきます。昨年度がコロナの影響から運営面にも影響を与えています。事業継続のためにもご支援をお願いいたします。

- ・グループホーム設立・運営委員会 会費 6,000円 （グループホーム・設立委員会の会員になります。）

※会費は、飲料費や見学係る費用、スタッフの人件費等に使用します。よろしくをお願いいたします。

☆デイサービスからのお知らせ☆

古本(もちろん新しくても)など図書として並べられそうな本があればご寄贈ください。また、書き損じのはがきなども受け付けています。ご協力をお願いいたします。デイサービスの活性化の他、地域との交流に役立てていきたいと思っております。

また、過去にも施工をお願いしたことのある『秋田クロス』さんにデイフロアの壁紙張替をして頂きました。抗菌の白い壁紙と、一番奥の壁紙は暗めの茶色にして頂きました（プロジェクトに協力して頂いている明石高専学生さんのアイデア！）。

利用者の方々には好評で嬉しいです♡



新規職員紹介～♪



昨年11月よりグループホームほわいとに世話人として勤務しています古藤満（ことうみつる）です。前職は病院・医院・薬局へ薬を提供する医薬品卸販売の営業マンとして47年間務め退職しました。今回、友人の紹介で福祉関連に挑戦しようと思い、また現在コロナ禍の中、少しでもお役に立てる様スタッフ皆さんと一緒にさらなる向上を目指し頑張っていきたいです。

発行所 認定NPO法人 ぱれっと

地域支援と高齢者・障害の垣根を越えた社会保障を考える会

発行責任者 理事長 川田 晋

〒651-2133 神戸市西区枝吉4丁目86-1



つらい時にみんな一緒に頑張ったことはきっとこの先も一人一人の力になるはず。その力で夢を現実に繋げていきたいと思ひます。

高くジャンプをするには、ぐっと膝を曲げて膝のバネを縮めた反動で飛び上がるのです。今なら思い切り高く飛べるかもしれないと期待して、今年のコラージュはいろいろな事に挑戦していきたいと思ひます。



『それぞれの生活』

グループホームほわいと 末本あさと

グループホームほわいとは今年で5年目を迎えます。利用者さんは食器洗いや掃除・調理手伝い・ゴミ捨てなど、それぞれが出来ることで役割を持って生活されています。世話人さんと一緒に取り組まれ皆さんとても上達しました。

と書きつつ、自己満足になっているなど感じる今日この頃です。みんなはどう思っているんだろう？と。

この4年でほわいとは生活の基礎となる場であり、休息の場になったと思ひます。しかし、生活時間や内容はこちらから提案したり決めることが多く、自己決定の機会が少ないと感じます。「自分たちのことは、自分たちで決める」という『自己決定』。大切にしたいと思ひつつどう取り組んだらいいのか…。『それぞれの生活』が叶うように私自身も勉強し、実現出来るように取り組んでいきたいと思ひます。

『新年度に向けて』

地域支援事業所ぱれっと（就労継続支援B型） 重田圭介

今年も春の訪れに喜びを申し上げます。皆様は何で春を感じますか？私は「食べ物」です。山菜や魚、その時々にとれる食べ物に季節を感じています。

最近では、コロナの影響もあり入学式なども様々な制限のある式になっているようで「新たな習慣」に戸惑いを隠せないところではありますが、ぱれっとでも新年度に入り、新たな取り組みを始めていきたいと思ひています。

これまで就労で取り組んできました「竹プロジェクト」も3年目に突入し、徐々に我々の活動も広がりを見せてきました。

昨年度は予定より多くの作業のご依頼いただき、お客様には日程の調整の方でご迷惑をおかけいたしました。

そこで今年度はその反省を生かし、外作業の充実を図るべく新たな作業体制を作っていくと考えています。まだまだ課題が多く、すぐに固定した作業に至らないと思ひますが、利用者から希望者を募り、外作業を進めていきます。屋内の作業でも授産製品の竹パウダーを使った石鹸やコンポスターの販売もネットショップを活用・強化していきたいと思ひています。

まだ多くの自然を残している西区の竹を大切に、竹といえば「ぱれっと」と言われるくらい夢は高く持ち続けたいと思ひています。古くはあの発明王エジソンも注目したといわれている日本の竹を、今度は我々がその可能性を大きく発展できる本格的な活動の年にしていきたいと考えています。

『SHOWTIME』

デイサービスぱれっと 中原達也

挨拶がてら私の好きなことの一つをお話したいと思ひます。「SHOWTIME」を皆さんはご存知でしょうか？メジャーリーグで「プレーヤーズ・ウィークエンド」というイベントがあります。各選手の背番号の上に表記される選手名がこの3日間だけ、選手自身が選んだニックネームとなる限定ユニホームを着用するのです。

このSHOWTIMEは米メディアがロサンゼルス・エンジェルスの大谷翔平選手の翔平からもじっているのですが、文字通りのSHOWTIME(ショータイム)となった日がありました。タンパベイ・レイズ戦(現在は筒香さんが所属しています)で日本人選手として初の快拳となるサイクルヒット(野球に興味のない方すみません)を達成したのです。イチローさんが「大谷は世界一の選手にならなきゃいけない」とおっしゃったようですが、その言葉を裏づける高い潜在能力を見せつけるものとなりました。人に夢を与えることができる。素晴らしいことですね。みんなそれぞれの活躍の場が違いますが、何かしら誰かの力になっているものです。

私はまだまだ未熟者で一人で何もできませんが、みなさんとデイスタッフとで協力しデイサービスぱれっとの「SHOWTIME」をお見せできるよう努力をしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

『相談支援専門員のお仕事』

地域支援事業所ぱれっと（相談支援） 延命由章

相談支援という仕事に携わり、新年度で2年目になります。利用者ご本人・ご家族とお話をさせていただく機会が多々ありますが、そこにある背景やご要望は様々で十人十色です。

既にご存じかと思ひますが、そのご要望に福祉サービスを結び付けていく仕事が「相談支援」という専門員の大きな役割になります。

例えば、就労継続B型事業所に通うAさんは、一人暮らしを始めていたけど、食事がままならない、掃除がきちんとできないと相談にいらっしやいました。その相談内容やご家族の想いを聞き取り、何が必要なサービスなのかを探ります。その結果でサービスを提供して下さる事業所を調整します。障害支援区分をお持ちでない場合は、行政に繋がります。そして諸所の手続きが終わり、受給者証が発行されると居宅介護の家事援助をお使ひいただけるようになり、安定した日常生活の端緒になります。

このように、利用者の皆様やご家族の想いをサービスに繋げるのが、我々「相談支援専門員」の仕事です。様々なサービスの利用規定があり、それを理解して提案するのに日々奮闘しています。障害をお持ちの方々、その人それぞれに見合うサービスが受けられる様に努力して邁進していくことを、新年度の目標にしていきたいと思います。

これからも変わらないご支援をいただけますよう、どうぞ宜しくお願ひいたします。



早く沖縄に行きたいよ！！